

## 地域福祉計画推進懇話会 構成員の取組紹介

<b>【構成員氏名】</b> 北九州市社会福祉協議会地域福祉部 磯田 佳宏																												
<b>【取組名】</b> ふれあいネットワーク活動																												
<b>【地域課題・取組のねらい】</b> 急速な少子高齢社会のなか、一人暮らし等の高齢者が住み慣れた地域で生活していくために、介護保険等の公的サービスだけでは十分に担うことのできない見守りや支援活動を地域住民の参加により構築していくもの。 課題としては、地域の福祉課題に無関心な住民への啓発と、地域団体間の連携と協働。																												
<b>【取組の概要】</b> 地域住民の参加により、地域の一人暮らし等の高齢者を定期的に訪問し、生活状況を把握し困ったことがあれば支援につなげていく活動。 市内の154校(地)区社会福祉協議会で「見守り」「助け合い」「話し合い」の3つの仕組みを基本事業として展開。 平成27年度活動実績 「見守り」 福祉協力員 6,954人 見守り対象世帯 <table border="0" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>一人暮らし高齢者世帯</td> <td>42,281世帯</td> </tr> <tr> <td>高齢者のみの世帯</td> <td>44,658世帯</td> </tr> <tr> <td>昼間高齢者のみの世帯</td> <td>19,144世帯</td> </tr> <tr> <td>その他の世帯</td> <td>8,479世帯</td> </tr> <tr> <td>(計)</td> <td>114,562世帯</td> </tr> </table> 「助け合い」 ニーズ対応世帯 <table border="0" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>話し相手</td> <td>31,598世帯</td> </tr> <tr> <td>生活・福祉情報の提供</td> <td>23,706世帯</td> </tr> <tr> <td>買い物支援</td> <td>2,744世帯</td> </tr> <tr> <td>ゴミだし</td> <td>2,031世帯</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>2,803世帯</td> </tr> <tr> <td>(計)</td> <td>62,882世帯</td> </tr> </table> 「話し合い」 連絡調整会議の開催 <table border="0" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>月に1回開催</td> <td>80校区</td> </tr> <tr> <td>2か月に1回開催</td> <td>47校区</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>27校区</td> </tr> </table> サロン実施数 106校(地)区、268カ所	一人暮らし高齢者世帯	42,281世帯	高齢者のみの世帯	44,658世帯	昼間高齢者のみの世帯	19,144世帯	その他の世帯	8,479世帯	(計)	114,562世帯	話し相手	31,598世帯	生活・福祉情報の提供	23,706世帯	買い物支援	2,744世帯	ゴミだし	2,031世帯	その他	2,803世帯	(計)	62,882世帯	月に1回開催	80校区	2か月に1回開催	47校区	その他	27校区
一人暮らし高齢者世帯	42,281世帯																											
高齢者のみの世帯	44,658世帯																											
昼間高齢者のみの世帯	19,144世帯																											
その他の世帯	8,479世帯																											
(計)	114,562世帯																											
話し相手	31,598世帯																											
生活・福祉情報の提供	23,706世帯																											
買い物支援	2,744世帯																											
ゴミだし	2,031世帯																											
その他	2,803世帯																											
(計)	62,882世帯																											
月に1回開催	80校区																											
2か月に1回開催	47校区																											
その他	27校区																											
<b>【取組の中で見えた課題】</b> ・地域福祉活動の担い手確保 ・身近な場所でのサロン等の開設 ・地域と連携した福祉教育の推進 ・地域の関係団体と連携した課題整理と協働 ・新たな課題に対応するボランティア活動者の育成																												

## 地域福祉計画推進懇話会 構成員の取組紹介

<p><b>【構成員氏名】</b> 田代 久美枝 (カフェ・オレンジ 認知症・草の根ネットワーク)</p>
<p><b>【取組名】</b> 認知症カフェ「カフェ・オレンジ」の取り組みから見えてきたこと。</p>
<p><b>【地域課題・取組のねらい】</b> カフェ・オレンジは、①拠点認知症カフェとしてモデルケースを作ること ②人材育成 ③地域に還元すること。地域の認知症カフェ（サロン）の支援をする。 ④認知症本人が生きがいを持って参加できる取り組みを作ること。 を目的としている。(28年度) さらに、認知症支援・介護予防センター運営に関する6者連携協働協定を行っていることから、「さまざまな連携」を模索実行することが基本となる。</p>
<p><b>【取組の概要】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 28年4月よりカフェ運営のボランティア育成のため「カフェ・マスター養成講座」を行い、9月まで3回の講座を実施した。(他にステップアップ講座を開催中・資料参考)</li> <li>・ 現在79名のマスターが1日4名、有償ボランティアとして活躍中。(4時間千円)</li> <li>・ 健康推進員、地域組織、介護事業所、ボランティアグループなど様々な連携の中で、研修・見学の利用も大変多い状況である。また、他市からの見学も多い。なかでもマスターさんのクチコミが地域に広げる広報力として大きな力となっている。</li> <li>・ 個人で来店される方も徐々に増えている。 認知症に限らず、うつの方、病気をされた方、子ども、引きこもりの方、様々な方が来られる。マスターさんが話し相手をするなかでリピーターも増えているようである。</li> <li>・ 様々な人が出入りし、つながっていくなかで、いかに出会う「場」を持つことが大事か、人は語ることによって何かを乗り越えていけると感じているが、また同時に多くの空白にも気づかされた。知識の空白、絶望の空白期、「口」はあっても「手」の空白、人生最後の空白・・・等</li> <li>・ SOS ネットワーク構築と模擬訓練の支援。SOS 交流会とオレンジカフェ交流会の実施。</li> </ul>
<p><b>【取組の中で見えた課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 11月より地域のサロン調査という名目でカフェの地域展開を探る予定。</li> <li>・ まだ本当に必要な人にカフェの情報が届いていない。広報をどうするか。</li> <li>・ 70代を中心としたマスターさんの意欲には頭が下がる思いがする。29年2月には第4期の研修を設ける。もう少し若い世代をどう引き出すか、課題である。</li> <li>・ 現在カフェをフィールドとして研究をしている学生が2名いる。今後とも大学等の育成機関との連携を深める必要がある。</li> <li>・ 現場としての介護事業所との連携を深める必要がある。</li> <li>・ カフェは「入り口の入り口」として機能しつつあるが、つないだ先の専門のところとの連携のあり方を確認する必要がある。</li> </ul>

## 地域福祉計画推進懇話会 構成員の取組紹介

【構成員氏名】 西村 健司
【取組名】 子どもの居場所づくりや空き家対策・高齢者サポート（ソーシャルビジネス）について
【地域課題・取組のねらい】 1. 子どもの貧困・孤食・大人との関わり・教育—子どもの居場所づくり 2. 空き家対策・高齢者サポートの仕組みづくり—空き家・高齢者サポートの取り組み 地域だけでは解決出来ない課題に対して、各種団体（企業含む）との協働による取り組み
【取組の概要】 1. 子どもの居場所づくり「もがるか」プロジェクト 八幡東区中央町商店街内の空き店舗改装し、子ども居場所づくり及び子どもへの食事の提供をおこなっている。運営はNPO法人福岡県高齢者・障害者支援機構やNPO法人フードバンク北九州ライフアゲイン中心となり、個人ボランティアなども参加している。 2. 空き家対策・高齢者サポートの仕組みづくり どの地域でも、一人暮らしや二人暮らしの高齢者や空き家対策が課題として大きく取り上げられ、高齢者や空き家の把握などをおこなっている地域もある。最近では、生活サポートをおこなう企業や空き家の管理及びサービスをおこなう民間の不動産業者などもある。（地域との協働に課題を抱えている）
【取組の中で見えた課題】 ○地域と各種団体と企業等との信頼関係の構築する仕組みが必要 各種団体や企業が地域と協働したいと思ひ、地域に説明をしても受け入れてもらえず、協働関係が築けない事がある。（他地域から来る企業は特に厳しい） 市民センターやまちづくり協議会のニーズと各種団体や企業のシーズを繋ぐ仕組みが必要。 ○個人情報保護と守秘義務による情報提供と情報管理の仕組みづくり サービスを必要とする方の情報が入らない。民生委員や児童委員（小学校）の方に聞いても守秘義務があるとの理由で情報を提供してもらえない。特に、自治会未加入者の情報については、自治組織でも正確に把握できていない。高齢者のサポートを検討するにしても民生委員も地域からの求めに応じて、どこまでが守秘義務の対象となるのかなどの判断がついていない場合も多く、地域においても情報の出し方がバラバラで統一見解が必要。また地域では、得た情報の管理について大きな課題となっている。 ○ソーシャルビジネスとしての収益モデルと受益者負担 子どもの居場所づくりでの課題は、受益者負担と別収益の確保（子どもの確保は上記）。現在、もがるかでは昼間の子どもの来ない時間を利用してレストランを経営し、収益の確保を目指している。また、ボランティアとの継続的な関係作りや役割分担、有償・無償の判断も課題。 ○空き家をめぐる近隣トラブルと対応 空き家の近隣住民が善意で草刈りなどをおこなうと数ヶ月後に他の住民から、草刈りをなぜしないのかとのクレームが入るケースがある。また、庭木や生物が周辺に影響を与えているが所有者でないことにより対応できない状況もある。地域では所有者を把握出来ておらず、所有者と連絡が取れる仕組みや行政サポート及び地域、各種団体、企業で解決できる仕組みが必要。

## 地域福祉計画推進懇話会 構成員の取組紹介

<b>【構成員氏名】</b>	芳賀 茂木
<b>【取組名】</b>	急速進行中の少子高齢化・世帯減の中で・・・ “地域に於ける人材発掘・育成への取組について”
<b>【現 状】</b>	八幡東区：人口 68,177 人(362 町会、加入率 75.8%、12 まち協)、高齢化率 34.5% 大蔵地域：人口 6,878 人、加入率 92.6%、高齢化率 45.2%、地域の大半が傾斜地
<b>【地域課題】</b>	① 世帯減～収入の減少、空き家、空き地の増加、地域内インフラの劣化 ② 地域コミュニティの希薄さ、無関心、後継者難、現状の担い手も高齢化 ③ 地域の実態が人々に伝わっていない～お任せ主義
<b>【取組のねらい】</b>	～地域への愛着と誇りを醸成 ① 地域への思い～地域の強み、弱みの把握 ② 課題に対する危機意識の共有～将来への展望 ③ 当事者意識をもつ～自らが地域づくりに関わる
<b>【取組の概要】</b>	<p>* 地域データの把握：年 2 回（3 月、9 月）の人口動態統計データ、将来推計資料などの活用 （地域の特性、地域分布、経年変化など見える化を推進～問題意識や当事者意識）</p> <p>* 2050 の八幡東区は：20～39 歳の女性が 51%減？（日本創生会議から）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 「地域(大蔵)の明日を語る会」（H27～）（事例紹介） ～地域役員、福祉施設、地域の金融機関、幼稚園・保育園、出店企業、個人などで構成 “50 年先に備えたまちづくり”～地域の人口半減に備えて テーマ：地域の特色を活かした緩やかな縮減社会を目指す ：若い世代や子育て一段落の女性との仲間づくり</li> <li>● 長期展望にたった後継者(担い手)の育成 <ul style="list-style-type: none"> <li>① 地域課題提起とその解決策を通じ人材育成（適性確認）</li> <li>② 参加各団体の人的ネットワークの活用～情報収集、研修講師招聘</li> <li>③ 他団体との交流による自己啓発の場づくり</li> <li>④ 既存活動から気付き～（買い物支援、防犯防災、福祉、健康情報などの分野）</li> <li>⑤ 小中、保育園、幼稚園等の保護者会活用、地域連携</li> </ul> </li> <li>● 地域活動の広報強化～（地域の実態を知らない人が多い）→お任せ、無関心派の減少を図る</li> <li>● 自前の人づくり担当（学習）部門の充実～〇〇塾、土曜大学、市民カレッジなどの活用</li> <li>● 新しい人材が活動しやすい場づくり</li> </ul>
<b>【取組の中で見えた課題】</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 経験則重視や、団体間の連携不足に陥りやすい</li> <li>* 女性としての意見、考えを発信する場が少ない</li> <li>* 地域の広報力不足</li> </ul>

## 地域福祉計画推進懇話会 構成員の取組紹介

【構成員氏名】北九州市市立大学 眞鍋和博

## 【取組名】

地域創生学群、地域共生教育センター、北九州まなびと ESD ステーションによる、「学生×地域」による課題解決プロジェクト

## 【地域課題・取組のねらい】

高齢化、人口減少、耕作放棄地拡大、福祉の担い手不足、子どもの貧困、教育問題、まちなぎづくり、等々、北九州には様々な地域課題が潜在的であれ、顕在的であれ、数多く存在しています。そのような課題に対して、学生たちがチームを組み、地域の方々と共に、解決に向かうプロジェクトを多数展開しています。そうすることで、当該課題の解決のみならず、学生の経験、学修にも寄与する取り組みとなっています。そのような活動を行うことで、学生たちはシビックプライドを身につけ、更なる地方創生の担い手として将来の活躍を期待できるようになります。

## 【取組の概要】

## 《地域×大学》地域課題解決プロジェクト

北九州市の地域課題；人口減少、高齢化、過疎化、製造業空洞化、安全安心、 etc…

北九州市立大学 地域創生学群(2009～)	北九州市立大学(2010～) 地域共生教育センター	北九州まなびとESD ステーション(2013～)
猪倉農業関連、子どもの学び支援、 地域創生学群広報、小倉活性化、 ESDまなびと連携、門司活性化、地 域共生教育センター運営、北九州市 立療育センター、コミュニティー フーカー、司法福祉、シニア体力 アップ、北方野球教室、車いすソフ トボール、FMラジオ番組制作	ファッションネットワーク、 オープンキャンパス、 キャリアーナ、 ハッピーバースデー、 防犯・防災、 JOB×HUNTER2015、 YAHATA-HAHAHA、 環境ESD、北九州の文学、 青空学、東日本大震災関連	シティプロモーション、カタリバ、ギ ラヴァンツ北九州学生応援、 グリーンバード、 ハッピーハロウィン、北九州en、 リノベーションスクール、 カンボジア支援&まるごと韓国、 もりフォーラム、手作り市場、 北九州ご当地グルメ活性、Gerbera、 藍島、健康教室、科学対話
		

約50プロジェクト、1000名の学生が、北九州においてPBL,SLを实践

地域創生学群は、正規科目「実習」として地域でのプロジェクト活動を位置付けています。学生たちは1年次から3年次まで必修として地域活動に取り組みます。

地域共生教育センターは、地域活動を取り組んでみたいと考えている学生に、その機会を提供しています。地域に貢献したいという想いととも、学生時代に有意義な経験をして、様々な能力や知識を獲得したいと考えている学生が参加しています。

北九州まなびと ESD ステーションは、北九州市内すべての国公立大学 10校が連携して、地域活動に取り組んでいます。各大学から意欲の高い学生が集まり、様々なプロジェクトが生まれています。

## 【取組の中で見えた課題】

学修成果の可視化、社会的インパクトの測定、継続性、予算確保、活動の質の向上、指導者(ファシリテーター、コーディネーター)の配置、といったことが課題として挙げられます。